

北の農職家 KITA NO NOUSYOKUKA

2022年7月号 No.307

No.307



「大地と海をつなぐ植樹」 JA女性部とフレッシュ・ミズの皆さん

開催日:6月21日(火)





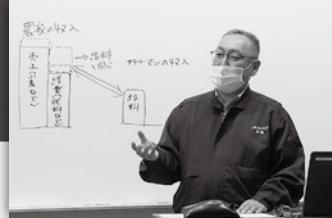
J A 情 報 館

中学2年生総合学習 「自分が食べている食料に興味を持とう！」

津別中学校(仲野寿浩校長)2年生を対象に総合学習として、平成27年よりJAからの申し出で始まった「農業体験学習」が今年も開催されました。

6月7日(火)、農業体験の事前学習として、2年生21名が視聴覚室に集まり『日本・北海道・津別町農業の実態と課題』と題して、JAつべつ経済部営農課有岡敏也が講師となり、2時間の授業を行いました。

授業のねらいは、「自分が食べている食料に興味を持ってほしい」「海外の農産物を食べることは、水・空気・土も外国産を食べることを自覚してほしい」ということです。授業では『津別町農業と北海道農業の特徴』から始まり、『JAつべつとJAグループ北海道の役割』『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会』等について説明し、問題形式を取りながら行いました。今後の日程は、8月下旬に生徒たちがグループに分かれて畑作農家や酪農農家の所へ行き、圃場の草取りや牛舎の清掃等を行う予定です。



高校3年生職場体験

津別高校(高倉友恵校長)では令和元年度より、地域を知り課題解決能力を育むための探求授業「つべつ学」を実施しており、今年度は3年生が津別町の産業(ビジネス)の今と昔について探求を行い、その一環として職場実習・職場見学を実施しています。

6月22日(水)3年生の小野寺俊太さんと新谷春陽さんが、「JAの事業紹介」説明やJA施設(小麦調整乾燥工場・堆肥センター・子会社)見学、給油所体験、圃場巡回による生育調査の説明を受けました。

2人とも将来農家を継ぎたいと考えており、高校卒業後は本別町の農業大学校に進学する予定です。新規就農の際は、JAで開講している「ふるさと塾」でまた会えることを楽しみしております。



高橋文明北海道議会議員との意見交換会を開催

6月1日(水)JA会議室にて、北海道議会議員である高橋文明道議を招き、第1部は新規参入者(金子知央組合員・小野塚一郎組合員)や新規就農者(中山和彦組合員、鈴木健二組合員、十河孝文組合員)と、第2部はつべつTAKE ACTIONミーティング(谷智博マネージャー)役員6名と意見交換会を行いました。

意見要望として、新規参入・新規就農の課題は多額の事業費である為、町の経営自立補助金の増額や津別町の人口減少により教育・福祉等も含め次世代がこの町に根付く環境整備が必要である等の要望が出ました。

TAKE ACTIONミーティングからは、提言書を説明し、諸問題や課題に対して理解と協力を求めた他に、肥料・農薬・資材・燃料高騰に伴う対策、輪作体系に必要な甜菜について生産者が安心して作付維持できる様対策を要望、また指導体制が希薄化している為、普及センターの職員を増員してほしい等の要望がありました。

高橋道議からは、貴重なご意見とご要望をしっかりと受け止め、地域の実情を道農政部へ伝えたいと述べました。



J A 情 報 館

(有)だいちで 安全祈願祭を開催



6月13日(月)、令和3年度畜産・酪農収益力強化整備等対策事業にて牧草収穫用として、トラクター(イセキT7726)、バタフライモア(KRE CB870)、フロントモア(KRECF360)を導入し、今シーズンの安全作業と五穀豊穣を祈願し、佐野成昭代表取締役並びに(有)だいち関係者にて執り行われました。

津別町乳質改善協議会による ミルカ一点検実施

津別町乳質改善協議会(中田晃一朗会長)では、牛乳の品質改善と牛の健康管理を目的としてミルカ一点検を実施しております。

今年度は、6月8日から3日間の日程で実施しました。松原光則専門点検員・役場・美幌地区農業改良普及センター・JA職員が同行し、ミルカーに不具合がないか等の各項目を点検し、不具合による牛への負担を軽減する指導を行うことにより、良質な美味しい牛乳が皆様に届けられます。写真は、株式会社あぐり東岡牧場の点検風景です。



恩根地区(重点)青空講習会とスペースアグリ研修会開催

6月1日(水)網走農業改良普及センター美幌支所(遠藤良恵支所長)の普及員を講師に招き、恩根地区(重点)の圃場にて生産者10名参加のもと、玉葱と秋まき小麦の青空講習会を開催しました。玉葱は中野専門普及員が講師となり、今後の栽培の注意点や除草剤の使用、各病害虫の特徴や使用薬剤の効果と注意点等の説明がありました。また、秋まき小麦は荒木係長が講師となり、「きたほなみ」の品種特性を理解する事により多収栽培方法の実践等の説明を受けました。

6月21日(火)には、JA会議室にてスペースアグリ(株)瀬下隆社長を講師に迎えて、恩根地区(重点)の生産者3名が参加して、スペースアグリサービスの活用及び操作方法を学習しました。



ホクレンSS津別給油所で消火訓練を実施

5月10日に緊急用発電機稼働訓練後、続いて6月14日(火)ホクレンつべつ給油所にて、当JAの予防規程に基づいた消火訓練を実施しました。本訓練は万一の災害発生に備え、適切で迅速な初期対応を身につける事で、地域や利用者の方々へ安心と安全を守る為に毎年実施しています。訓練にあたり、長岐管理課長の立会の下、自主訓練の方法にて給油所職員全員が実際に水消火栓を使用した消火訓練を行いました。



アソビバ！つべつ JAつべつ青年部とかかし作り・生育観察



6月11日(土)2回目の活動計画として「とかかし作りと生育観察」を行いました。最初に中央公民館に集まり、JAつべつ青年部 十河孝文部長の説明を聞いてからとかかし作りに取り掛かりました。新聞紙を丸めて大きなビニール袋に入れ頭を形どりとかかしを完成させた後、(有)だいちの青年部畑に移動して、子供たちみんなでとかかしを立てました。次に生育観察を行いました。植付後3週間経過した田んぼのイネの説明を、青年部の岡本卓也お兄さんが行いました。時折カエルも話を聞きに子供たちの前に出てきたようです。畑に植えた南瓜やサツマイモは、低温と長雨による日照不足により成長が遅れ気味ですが、「早く大きくなあ～れ」と願いを込めながら生育観察をしました。当日は、天候に恵まれ、青年部員6名と子供たち22名の参加で楽しい時間を過ごしました。次回の予定は、7月に草取りと生育観察を行う予定です。

J A つべつ青年部 町内草刈活動を実施

J A つべつ青年部は、6月7日(火)部員21名・6月28日(火)部員18名にて町内の清掃活動の一環として津別町の要請を受けて草刈を行いました。7日は豊永ラグビー場の周辺、28日は丸玉産業周辺と豊永公園周辺を実施し、等間隔に分かれて手際良く作業を行いました。今後の予定として3回目の草刈りや廃プラ回収作業を実施する予定です。



▲6月7日 第1回町内草刈り活動



▲6月28日 第2回町内草刈り活動

J A つべつ青年部 夏季スポーツ交流会開催



6月17日(金)共和野球場にて、農作業の合間をぬって3年ぶりに親睦ソフトボール大会を開催し、部員26名とJA職員4名がスポーツを通じ交流を深めました。

体を動かした後は、21世紀の森で焼き肉を行いました。こちらもソフトボール以上に盛り上がり親睦を深めることができました。



J A 情 報 館

J A フレッシュ・ミズ 日帰り研修

6月14日(火)フレッシュ・ミズ(金一和美部長)会員9名が参加し、網走市「流氷硝子館」でガラス制作体験を行いました。吹きガラス体験、アクセサリー組立て体験、サンドブラスト体験の3つから選択してそれぞれ分かれて作品を作りました。吹きガラス体験をした会員は、ゆがんだりすることなく綺麗な形に出来上つがっていました。昼食後は、久しぶりの活動で会話が弾み交流も図られました。



「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」に関する 実証実験 記者説明会開催

6月8日(水)JA会議室にて「スマート農業の開発・実証プロジェクト」の説明と実験公開を行いました。参加者は、メディアからは北海道新聞・読売新聞、NTT北見放送局、日本農業新聞、道東テレビ、東亜リサーチ、北海道建設新聞、その他からは北海道農政事務所、津別町役場、日本甜菜製糖、津別スマート農業研究会が参加しました。

実証実験内容は、①スマートトラクターシステムを用いた傾斜地での移植・除草作業自動化(北見工業大学)②ドローン及びトラクター撮影画像を用いた画像認識によるてん菜褐斑病の病害虫検知(NTT)③振動センサー付き端末を用いた鳥獣害対策(NTT)

スマート農業実証プロジェクトの概要をJAつべつ経済部営農課有岡敏也が説明し、①については北見工業大学楊亮亮准教授が説明、②はドコモ5G・IoTビジネス部山田和宏部長、③はドコモ東北支社法人営業部後藤知之主査が説明しました。

次に場所を移動して岩富地区(有)矢作農場の圃場にて、5Gを利用したスマートトラクターによる有機玉葱畑での自動除草作業を実験公開しました。トラクターは作物を傷つけずに雑草を取り除く事が出来、約50%の作業省力化を目指します。

また、木樋地区(有)木樋桃源ファームの圃場では、ドローンとトラクターを利用しててん菜の病害虫検知の実演デモンストレーションを行いました。畑にドローンを飛ばして上空から撮影し、画像分析して病気の発生場所をパソコン上に表示し作物の病害を検知するシステムの実証実験で、従来の農薬全面散布に対し、病害発生箇所を特定して部分散布が可能となり農薬コスト15%削減を目指します。

鳥獣害対策は、(有)木樋桃源ファーム圃場の罠設置場所に移動し、GPSわな監視装置「kaggata」、わな検知クラウドを視察しました。GPSを使った振動探知機とセンサー付きカメラに鹿や熊がかかる際に自動的に撮影され捕獲通知が来る仕組み。それを受け現地に行けばよいので見回り作業が削減できる。被害額20%減少・労働力50%削減を目指します。

「生産者の所得が増えないと、この実証を導入することにはならず、最終的には10%所得向上することによって他の生産者、他の地区にも推進する事が出来る」と考えています。今年1年実証実験を行って課題を検証したいとしています。





JA情報館

「大地と海をつなぐ植樹」開催 網走川流域農業・漁業連携推進協議会 「樹を植えて豊かな海を育てましょう！」

6月21日(火)、だいちとうみの会地区開催による「大地と海をつなぐ植樹」が網走川最上地区河川敷で関係者136人が集まり400本の植樹を行いました。会を代表して新谷哲也会長は「植樹を始めて33年。木が育つように網走川流域の自然環境を守る人の輪が広がっている」と挨拶しました。地元を代表して津別町佐藤多一町長からは「皆さんのが志によって今年も大勢の方に参加していただけた」と感謝を述べました。目的は、自然環境の保全と回復に努め、豊かな自然を未来に残すことの大切さと海の大地に関わる産業の共存と共生である。今年は広葉樹400本(ヤチダモ100本、カツラ100本、ハルニレ100本、ケヤマハンノキ100本)を植樹しました。



網走川流域一斉清掃事業を開催

6月26日(日)網走川流域が育む独自の文化や風土、そして豊かな海と大地の恵みを次世代に引き継ぐ事を目的に網走川流域の会主催のもと、津別地区は午前9時から達美つり橋付近の網走川沿いを一般参加者と津別町役場職員・JAつべつ職員の合計30名の参加で快晴の中清掃活動を行いました。約1時間の清掃活動で約50kgのゴミを収集し終了しました。



令和4年度農水省ファームステイ事業受入実施

6月20日(月)から3日間、JAつべつ青年部(十河孝文部長)とJAめまんべつ青年部(渡辺将太部長)との合同で令和4年度農水省ファームステイ受入事業を行いました。受入農林水産省職員は3名。研修内容は(有)すばるで小麦圃場視察、大空町の新規就農の実例と圃場視察、ドローン操縦体験、㈱E・H・Fにて施設見学を行った後、北見農業会館で、オホーツク農協青年部協議会(金一善紀部長)役員5名の他、JAしづとこ斜里・JA清里町・JAこしみず・JAオホーツクあばしり・JAめまんべつ・JAつべつの青年部役員を含め合計24名で合同意見交換会を行いました。最終日は、オホーツクビーンズファクトリーの施設見学を行い受入事業は終了しました。

【農林水産省ファームステイ事業受入職員】

- 農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課 企画専門職 山本 将平 氏
- 農林水産省農村振興局整備部水資源課 増田 重明 水利施設強靭化班利用推進係長
- 農林水産省穀物課豆類班 向坂 悠希 大豆係長



左から 向坂 悠希氏 増田 重明氏 山本 将平氏

J A 情 報 館

第24回JAつべつ杯ゴルフコンペ 石井 純 氏 優勝

6月4日(土)ノーザンアークゴルフクラブ(北見市端野町)にて『第24回JAつべつ杯ゴルフコンペ』を40名参加のもと開催しました。佐野組合長・鹿中津別町議会議長・新谷網走漁協組合長による始球式を行い、参加者は10組に分かれ日頃の練習の成果を発揮し、参加者相互の親睦を図りました。

【大会結果】
優 勝:石井 純
準優勝:深田 知明
1 位:吉田 裕次
2 位:泉 貴宏
3 位:新谷 哲也



左から
佐野組合長・鹿中津別町議会議長・新谷網走漁協組合長

津別町建設業協会との意見交換会を開催



6月17日(金)役員会議室にて、津別町建設業協会との意見交換会を行いました。出席者は、清水靖則会長(清水建設)、寺田常務(津別建設)、浅野社長(津別トラック)、べんど社長(べんど建設)、港常務(国安産業)と当JAからは佐野組合長、安部職代、岡本常務、稻部部長、中西部長、久保部長の計11名。

清水会長から「意見交換の貴重な機会を与えて頂き感謝申し上げます。農業と土木の共通点は土を生業とする業界。今後のご支援ご協力の始まりとなればと考えております」と挨拶がありました。内容は、鹿防護柵設置事業や次期道営畑総事業、畠地かんがい事業、労働力需給調整等について意見交換を行いました。

年金友の会情報

第2回 ゲートボール大会

【開催日】令和4年6月8日(水) 【開催場所】豊永 屋内ゲートボール場

優 勝 : 佐藤 チーム
【佐藤 正明・佐野 信子・溝渕サカエ・野本 弘子・奥村 照子】
準優勝 : 山田 チーム
【山田 照夫・鹿中 順一・土江 幸子・手賀 武一・五島 良雄】
3 位 : 柏木 チーム
【柏木 茂・佐藤 朝代・鍛治 博光・館野ヨシ子・山下 昌子】
4 位 : 井上 チーム
【井上 隆幸・細川 恵市・糸尾 健一・笠井キヨ子・今井 保】
5 位 : 丸尾 チーム
【丸尾 諭・小野 勇・幅口 悅子・藤原 熊男・長尾 隆行】



第2回 パークゴルフ大会

【開催日】令和4年6月23日(木) 【開催場所】豊永 さくら・いちいコース

男性の部
優 勝 : 幅口 功【99】
準優勝 : 三島 宏章【100】
3 位 : 佐藤 正明【101】
4 位 : 石塚 征勝【102】
5 位 : 長尾 隆行【103】
6 位 : 鍛治 博光【104】
7 位 : 細川 順弘【104】

女性の部
優 勝 : 斎藤 清子【111】
準優勝 : 佐野 信子【113】
3 位 : 篠原 恒子【113】
4 位 : 土江 幸子【114】
5 位 : 佐藤 朝代【117】
6 位 : 館野ヨシ子【121】
7 位 : 赤池 奎子【122】

●ホールインワン賞
土江 健二 (さくらB-9)
斎藤 清子 (さくらB-9)

官農課からのお知らせ



7月中旬から8月中旬までの官農技術について

■ 畑作物

小麦

収穫(適期収穫)

- ①圃場の子実水分や乾燥状況を調べ、適期収穫に努めて下さい。
- ②コンバイン収穫時の子実水分は、30%未満を目標として下さい。
- ③倒伏・穂発芽・赤かび病等の異常麦は別刈りとし、小麦の品質管理に努めて下さい。
- ④高水分小麦は異臭麦発生の原因となるので、収穫後速やかに乾燥施設へ搬入して下さい。
- ⑤雑草が繁茂した圃場の抜き取りを可能な限り実施して下さい。

ばれいしょ

軟腐病

7～8月が高温多湿に経過する年に多く、倒伏した圃場で発生被害が多くなります。薬剤による予防散布を行って下さい。耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤を連用はしないで下さい。特に、オキソリニック酸剤は低感受性菌が、ストレプトマイシン剤は耐性菌が出現している地域があるので薬剤の選定に注意して下さい。

■軟腐病防除薬剤系統(農協防除ガイド記載薬剤)

成 分 名	薬 剤 名
銅(塩基性硫酸銅)(塩基性塩化銅)(水酸化第二銅)	フジドーレフロアブル・ドイツボルドー・KBW コサイド3000・クプロシールド・クミガードSC
ストレプトマイシン	アグレプト液剤
ストレプトマシン・銅(塩基性塩化銅)	銅ストマイ
オキソリニック酸	スターナ水和剤
オキシテラサイクリン・ストレプトマイシン・銅(水酸化第二銅)	バクテサイド水和剤

豆類

追肥は、生育や根粒菌の着生状況を確認して要否を判断して下さい。

① 大豆

生育後半に根粒菌の活性が劣る圃場では、7月中～下旬の「開花始」頃に窒素量5kg/10a程度を施用する必要があります。ただし、透水性が不良な場合、根粒菌の着生が不良となる場合があるため、根粒菌着生数に基づき追肥の要否を判断して下さい。

② 小豆

生育が劣っている場合や地力が低い場合は、7月中旬頃(第3本葉展開期)に窒素量5kg/10a程度の追肥を行う必要があります。過度な窒素追肥は、葉落ちを悪くし適期収穫を困難にさせるので行わないようにしましょう。



■園芸作物

玉葱

病害虫では白斑葉枯病やネギアザミウマの重点防除時期を迎えます。
のことから、生育期や病害虫の発生状況に応じた適切な管理を行って下さい。

①白斑葉枯病

薬剤選定に当たっては、薬剤毎の残効を考慮するとともに、同一系統薬剤の連用を避け、最終散布は倒伏期の15日前頃として下さい。

②ネギアザミウマ

気温の上昇によりネギアザミウマの活動が活発となり、7月以降に被害が大きくなる恐れがあります。薬剤散布は、ほぼ全ての株に軽微な食害が認められたら防除を開始します。この条件にならない時は7月10日から薬剤散布を開始し、最終散布は、7月20日以降に薬剤を散布したら終了として下さい。尚、ピレスロイド系薬剤抵抗性ネギアザミウマの発生が全道で広く確認されています。抵抗性ネギアザミウマの発生が確認されていない地域においても、ピレスロイド系薬剤の連用・多用は避け、散布後は防除効果の確認に努めて下さい。

■たまねぎで使用できるピレスロイド系薬剤(農協防除ガイド記載薬剤)

ピレスロイド系薬剤 / サイハロン乳剤、マブリックEW、ペイオフME、ゲットアウトWDG、

土壤のpHは大丈夫ですか?

一事前にFAXで御案内していますので御検討お願いします。
お問い合わせは生産資材課(☎76-3430)迄お願いします。

馬鈴しょそうか病の発生を懸念するあまり、土壤への石灰施用を控える傾向があるようです。そうか病の常発地帯は別としてカルシウムは、土壤のpHを改善するだけでなく、作物にとって重要な養分です。大豆やてん菜などはカルシウムの吸肥量が多く、生育に大きな影響を与えます。また、春まき小麦や大麦は酸性圃場では生育できず、播種後徐々に枯死してしまいますので、予めpHを確認して作付けする必要があります。

そこでお勧めのが、「ニッテンライム」です。通常の石灰資材(炭カル:アルカリ分53%)よりpHの矯正力は30%と落ちますが、その分カルシウムの補給はでき、コントラによる散布作業を委託できることから、安価で散布まで実施できます。散布量としては、炭カルで必要とされる量の1.2倍程度となります。

作物に健全な生育をさせる為にも土壤pHの適正化を図って下さい。畑作物における圃場のpHは5.5~6.5となっていますが、5.5はてんさいそう根病、ばれいしょそうか病対策基準です。

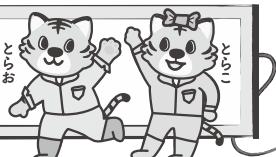
出来れば6.0以上に矯正する事が望ましいです。

目安として「ニッテンライム」は土壤20cm改良深で10a当たり350kgで現在のpHをおおよそ0.5上げる事ができます。



▲ライムケーキ散布風景
(有)ムトウ農機部品

知りタイガーのJA虎の巻



第29回
JA全国大会決議
JAグループの実践

[今回のテーマ]



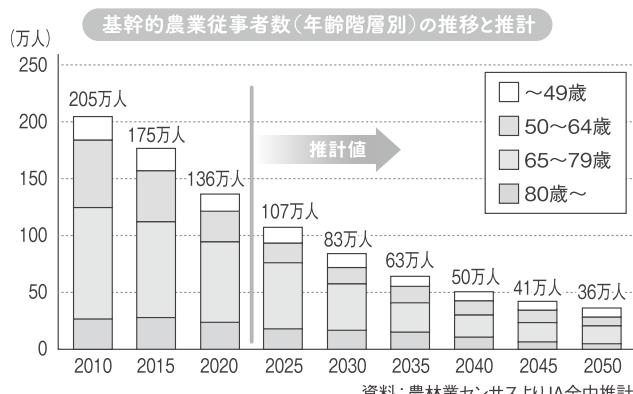
全国のJAで「次世代総点検運動」が
スタートしているね。私たちの身近な食と農を
未来につなぐとても大事な運動みたい。
どんな取り組みなの?

いま地域農業は、世代交代
期にあり、地域農業を支える次
世代の担い手を育成・確保して
いくことが課題です。



「次世代総点検運動」は、組合員とJA役職員が、共に地域農業の現状や将来を見通し、農業生産を維持していくために必要な次世代組合員数の目標等を設定し、その実現に向けた具体策(事業承継支援や新規就農者支援など)を策定する取り組みです。

JAグループは次世代組合員を戦略的に支援することで、持続可能な食と農の実現を目指します。



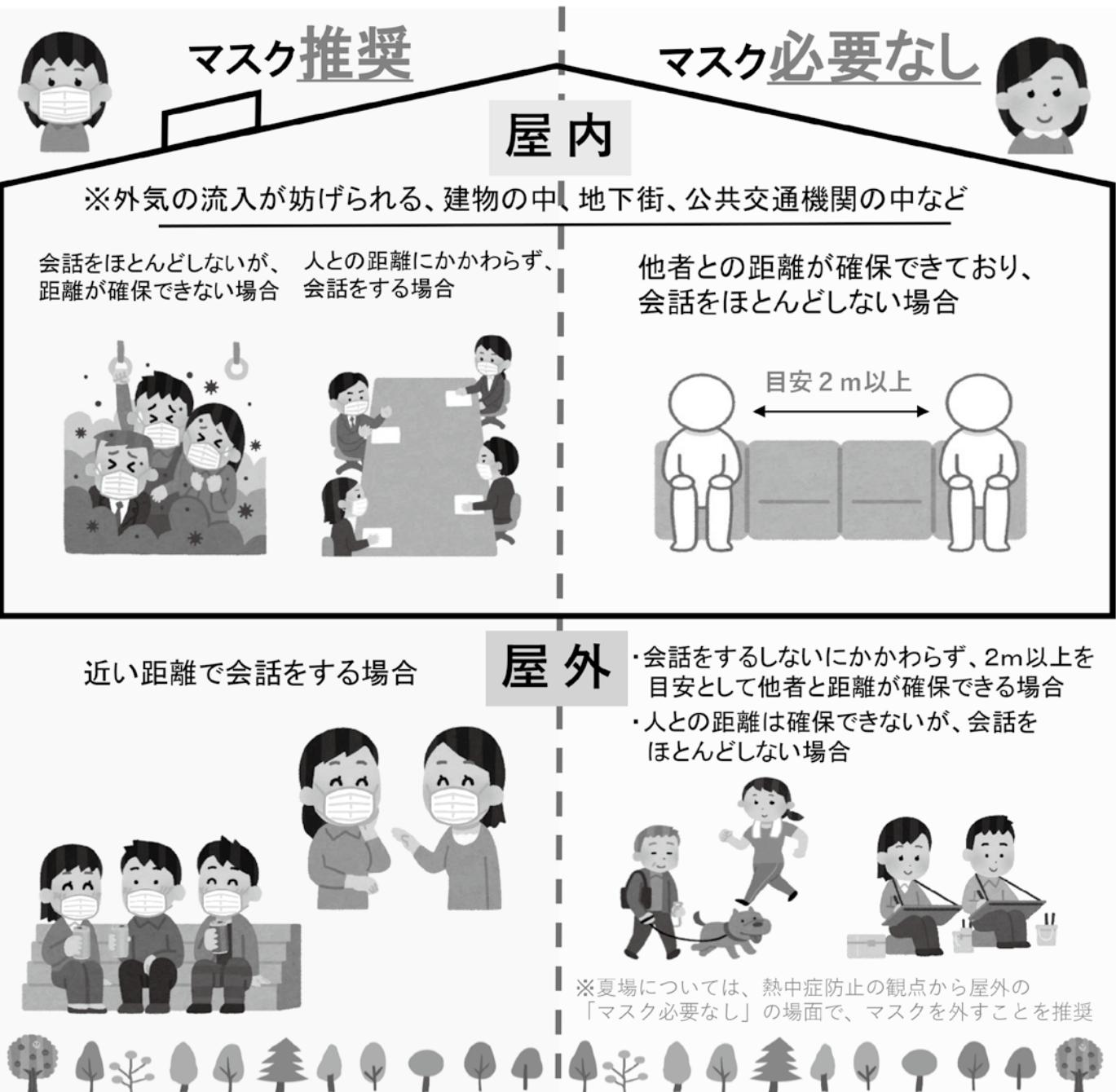
耕そう、大地と地域のみらい。

マスク着用の考え方

新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策として、マスク着用は極めて重要です。

一方、これから気温・湿度が高くなる季節を迎え、熱中症のリスクが高くなる懸念などがあるため、マスク着用の考え方などについて、国から取扱いが示されました。

道民の皆さんにも、引き続き、適切にご対応いただきますようお願いします。



※お年寄りと会う時や病院に行く時などハイリスク者と接する場合にはマスクを着用しましょう

小学校就学前の児童について

2歳児未満: マスク着用は奨めない

2歳以上: 保育所等では、人との距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めない



北海道

【北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室】



詳しくは、
道庁HPを
ご覧ください

2022
夏の

JAつべつ

©よりぞう

プレゼント企画

開催期間: 7/1金~8/31水

特別
金利

店頭金利×5倍=0.01%

(期間中、下記の新規契約の方)

定期貯金

契約額 10万円以上

預入期間: 1年以上
(自動継続限定)



定期貯金
ご契約の方

数量
限定

ミニ
ステンレスボトル
プレゼント!!

対象
条件

1. 個人のお客様に限ります。
2. お預入は、新たにお預入いただく資金といたします。
3. 初回満期時の自動継続後は、継続日における店頭金利を適用します。
4. 中途解約された場合は、当JA所定の中途解約利率を適用させていただきます。
5. 定期貯金/預入期間1年以上・定期積金/掛け期間1年以上。
6. 預入金額10万円以上1,000万円未満の新規または増額書換。(但し、満期の利息分は増額に含めません)
7. 定期積金満期後に預入条件を満たした新たな再契約も対象です。
8. 複数同一名義は1点に限らせて頂きます。

定期積金

契約額 12万円以上

預入期間: 1年以上
(口座振替限定)

定期積金ご契約の方

数量
限定

ミニ
トートバッグ
プレゼント!!



©よりぞう



△津別町農業協同組合

金融共済課

☎77-3170

農業の明日をひらく 北海道農業会議が ラジオ番組を提供中！

STVラジオ
月曜～金曜
朝5時45分から

おはよう
農家さん

今日のお天気と 病害虫情報

農家の皆さんの毎日のお仕事に役立つお天気と
病害虫発生情報をお届けしています。

番組内でコマーシャル放送中!
農家の皆さんの年金

農業者年金

- 農家の皆さんとご家族を力強くサポート！
- 条件により保険料の国庫補助あり！
- 少子高齢時代に強く安定した年金です！
- 終身年金で80歳までの保証付き！
- 税制の優遇措置があります！
- 保険料の額を選ぶことができます！

詳しくは農業委員会またはJAへ

減少を続ける日本の農業従事者

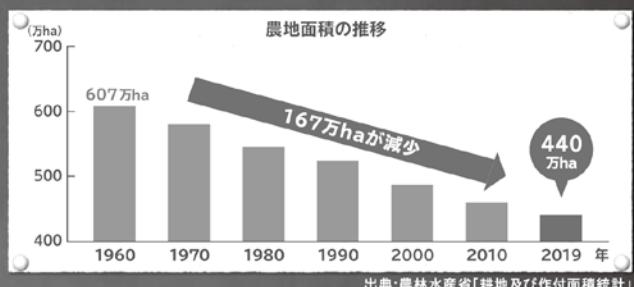
日本の「食」を次の世代につなげるために

なぜ今?
国消国産

毎年5万人以上の農業従事者が減少し続ける日本

左側のグラフは、日本の農業従事者数の推移を表していますが、2016年から2020年の間に、平均で毎年約5.6万人も減少しています。新規就農者も増加していますが、減少するペースには追いつかないのが現状です。また農業従事者の約7割が65歳以上で、

平均年齢は67.8歳(2020年)と、高齢化が進行しています。右側のグラフは、農地の面積の推移ですが、この60年間で約167万ヘクタールも減少しており、これは日本の国土の1/25以上にあたります。



農業生産基盤の弱体化は、今後の日本の「食」にとって大きなリスク

農業従事者の減少や高齢化によって耕作放棄地が増加すると、その土地を再び作物が生産可能な状態にするには、長い時間、手間をかける必要があります。農業従事者の減少と、それによる

農地の減少という農業生産基盤の弱体化は、国内の食料供給量の減少につながる大きなリスクです。

だから今!
国消国産

「国消国産」で、日本の「食」を供給してくれる農業を応援



※写真はイメージ

「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」するという「国消国産」をみんなですすめていくことが、国内の食料供給を支えてくれている農家と、農業を志す次の世代の背中を押すことになります。農業従事者などの減少に歯止めをかけ、日本の「農業」と「食」の安定をはかっていくことが、私たちの安定した食生活につながります。

- ① 日本の農業生産基盤は弱体化がすすんでいる
- ② 農業生産基盤の弱体化は、私たちの食生活に大きなリスク
- ③ 「国消国産」で、国内農業の持続と食料の安定供給を

JAグループサポーター・林修



耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ

7月下旬・8月上旬の主な行事



7月16日	土		8月 1日	月	経営会議
17日	日		2日	火	
18日	月	海の日	3日	水	
19日	火	役員推薦会議・JA役員意見交換会	4日	木	
		理事会・職員全体会議・応援証贈呈式	5日	金	年金友の会役員会
20日	水		6日	土	七夕まつり
21日	木	玉葱精算総会	7日	日	
		年金友の会パークゴルフ大会	8日	月	
22日	金		9日	火	農業労働力支援協議会
23日	土				広域てん菜戦略推進コンソーシアム総会
24日	日		10日	水	
25日	月		11日	木	山の日
26日	火		12日	金	
27日	水		13日	土	指定休日
28日	木	美幌広域連総会	14日	日	
29日	金		15日	月	お盆休み
30日	土		16日	火	お盆休み
31日	日		17日	水	
			18日	木	企画会議・年金友の会パークゴルフ大会

新型コロナウイルスの影響により、中止・延期の場合があります。

〔6月号の訂正〕

2ページに掲載の「甜菜狭畦栽培コントラの全自動6畦短紙筒狭畦移植機と6畦直播機の町内利用生産者は10戸で、コントラクター利用面積はおよそ75ha」が正しい内容でした。また、加工馬鈴薯コントラ事業の利用生産者は「14戸」が正しい内容でした。数字の誤りと文章が一部説明不足となつておりましたので訂正させていただきます。

協議事項

- ①組合員戸別訪問の実施について
- ②組合員交流会の開催について
- ③連合会との意見交換会について

付議事項

議案第1号 利益相反取引について（理事に対する貸付）

議案第2号 令和4年度農産物取引に伴う基準金利について

議案第3号 役員推薦会議の農協推薦枠委員並びに理事会推薦会議員の選出について

議案第4号 旱魃粗飼料対策について

議案第5号 夏期懇談会の開催について

議案第6号 J.A.グループ北海道 不祥事ゼロ運動の取組について

議案第7号 コンプライアンス・プログラムの改正について

議案第8号 事務リスク管理規程の改正について

議案第9号 固定資産の取得について（計画外）

第五回 理事会報告

開催日
6月29日